

株主・投資家の皆様へ

第99期 中間報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成19年9月30日



大正製薬株式会社

優れた医薬品、健康関連商品の  
提供を通じ、  
企業価値の向上に努めます

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社第99期中間期(平成19年4月1日から9月30日まで)の事業概況などにつきまして、ここにご報告申し上げます。

当社は、OTC医薬品、健康食品等を主力とするセルフメディケーション事業と医療用医薬品を取り扱う医薬事業を展開しており、それぞれの事業が両輪となって企業価値を高める努力をしております。当中間期においては、前年同期比で減収増益の結果となりましたが、各事業とも厳しい環境の下、積極的な営業活動を展開してまいりました。セルフメディケーション事業においては、OTC医薬品市場が縮小するなか、2009年の改正薬事法施行を視野に入れた情報提供型の営業活動を積極的に推進し、「リポビタンシリーズ」、「リアップシリーズ」が業績予想を上回る実績を上げることができました。一方、医薬事業においては、主力品を中心にほぼ計画通りの推移となりました。



代表取締役社長  
上原 明

下期に関しましては、セルフメディケーション事業ではスイッチOTC薬をはじめとした新製品の寄与が見込まれ、引き続き積極的な営業活動を展開いたします。医薬事業では、待望の新薬、キノロン系抗菌薬「ジェニナック®錠200mg」が10月5日に新発売されました。アステラス製薬と大正富山医薬品の共同販促により本剤の適切な情報提供を行い、早期に市場への浸透を図っていく所存です。

株主還元としましては、このたび初めて中間配当を実施し、当中間期の配当金は1株当たり12円といたしました。配当性向については30%（単体ベース、特別利益を除く）を目途としておりますが、万一業績が悪化し、配当性向が30%を超える場合でも、特段の事情がないかぎり1株当たり年間27円の配当を維持する方針です。

当社は優れた医薬品、健康関連商品を創造して生活者に提案、提供することにより社会に貢献し、企業としての存在価値を高めていきたいと考えています。今後も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 当中間期の概況と業績

当中間期におけるセルフメディケーション関連市場は、引き続き厳しい状況にありました。OTC医薬品市場は全体で前年同期比微増となったものの、かぜ薬をはじめとする主要カテゴリーにおいては、猛暑が長引いた影響もあり、前年同期比マイナスとなりました。また、ドリンク剤市場においては、機能性食品などの健康関連飲料との激しい競合が続いております。

医療用医薬品市場につきましては、後発品使用促進や包括化の拡大など医療費適正化施策が浸透しつつあることから、依然として厳しい事業環境におかれています。

そのようななか、セルフメディケーション事業では、新規効能やスイッチOTCの開発、店頭での販売促進活動に積極的に取り組んでまいりました。一方、医薬事業では重点領域を中心とした情報提供活動の強化に加え、グローバルな新薬導出等に注力してまいりました。その結果、中間連結売上高は1,207億円（前年同期比1%減）となりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費が大幅に減少したことで、大幅な改善をみました。販売費及び一般管理費については、研究開発費、広告宣伝費などで一部下期へのずれ込み要因があったほか、販売促進費等の見直しを進めたことなどにより、全体で前年同期比60億円減少しました。その結果、営業利益は191億円（同

30%増）、経常利益は225億円（同37%増）、中間純利益は141億円（同14%増）となりました。

### 通期の見通し

当期の通期業績につきましては、10月10日に発表させていただきましたとおり、期初に発表した業績見通しを引き上げました。連結業績は、売上高2,435億円（前年比1%増）、営業利益295億円（同32%増）、経常利益355億円（同42%増）、当期純利益220億円（同43%増）を予想しています。

セルフメディケーション事業の通期売上高は1,498億円とほぼ前期並みを予想しています。OTC医薬品市場は一部カテゴリーの伸長により底打ちの兆しが見えつつありますが、引き続き厳しい環境にあります。当社としましては、商品の効能や特性などの価値情報を生活者にわかりやすくかつ的確に提供できるよう、店頭での販売促進活動を徹底するとともに、医薬品メーカーとしてのノウハウを活かしたスイッチOTC商品の投入やブランドの育成・強化に取り組む方針です。

医薬事業の通期売上高は937億円（同1%増）を予想しています。来年4月に予定される薬価基準改定に向けての買い控えなどのマイナス要因が予想されますが、当社では情報提供活動の強化により、前年比で増加を見込んでおります。

セルフメディケーション事業

62.4%

当中間期の売上高

**753**億円 (前年同期比3%減)

ドリンク剤「リポビタミンシリーズ」の売上高は、新規ユーザー拡大に注力した他、低カロリー志向に応え新たに広告展開を開始して販売を強化した「リポビタミンファイン」などの寄与があり、422億円と期初の計画を上回りました。かぜ薬・鼻炎治療薬「パブロンシリーズ」は、前期夏かぜが流行したことの反動や今夏猛暑が長引いたことの影響などにより、78億円（同15%減）にとどまりました。壮年性脱毛症における発毛剤「リアップシリーズ」は、売り場拡大施策の浸透などにより48億円（同11%増）と伸長しました。機能性食品等のブランド「リビタシリーズ」は、新製品「リビタ大麦若葉青汁」の寄与などがあり、11億円（同9%増）と堅調に推移しました。海外におけるドリンク剤の売上高は32億円（同31%増）となりました。

医薬事業

37.6%

当中間期の売上高

**454**億円 (前年同期比3%増)

主力のマクロライド系抗菌薬「クラリス」の売上高は、前期に小児用ドライシロップ製剤改良品を発売した反動もあり、111億円（同9%減）となりました。その他の主力品では、末梢循環改善薬「パルクス」が58億円（同1%増）、ペニシリン系抗菌薬「ペントシリン」は31億円（同0%増）、ニューキノロン系抗菌薬「オゼックス」は16億円（同14%増）と概ね堅調に推移しました。その結果、連結子会社である大正富山医薬品の売上高は、400億円（同2%増）となりました。

その他製品の売上高は、中間製品の売り上げの減少等で46億円（同4%減）となりました。米国アボット社などからのロイヤルティ収入を中心とする工業所有権等使用料収益は9億円（同12%増）となりました。

## 新製品・開発品の状況

### <セルフメディケーション事業：新製品の動向>

当社では、生活者ニーズに合致した製品開発を強化しています。同時に、スイッチOTC薬の開発にも注力しており、当中間期は、医療用の抗ウイルス成分アシクロビルを配合した「ヘルペシア軟膏」（効能：口唇ヘルペスの再発）の承認を取得しました。この他、当中間期の新製品としては、ドリンク剤「リポビタン8NEW」、目薬「アイリス50」、クスリを服用するのに適した水「リビタ天然水」などを発売しております。一方、4月に「からだ環境ダイエットシリーズ」を発売し、通販部門の「大正製薬ダイレクト」の売上増加に寄与しました。

### <医薬事業：開発品の動向>

当社では、研究開発の重点領域を「精神疾患」「代謝性疾患」「アレルギー性疾患」「感染症」に絞り、世界に通用する新薬を発売することを目指し、研究開発を進めています。

当中間期においては、7月31日にキノロン系抗菌薬T-3811が製造販売承認されました（10月5日に「ジェニナック®錠200mg」として発売）。また、9月には前臨床段階にある精神疾患治療薬候補物質を米国ブレインセルズ社に導出しました。新薬パイプラインについては、図にお示しするとおりです。

製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発段階					開発形態	オリジン
			フェーズ1	フェーズ2	フェーズ2/3	申請	発売		
<b>国内</b>									
T-3811 (ジェニナック)	経口	ニュータイプのキノロン系抗菌薬	●					富山化学工業共同	富山化学工業
CT-064	注射	骨粗鬆症	●					中外製薬共同	ロシュ
NT-702	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	●					日産化学工業共同	日産化学工業
TT-063	外用	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	●					トクホン共同	トクホン
CT-064	経口	骨粗鬆症	●					中外製薬共同	ロシュ
NT-702	経口	気管支喘息	●					日産化学工業共同	日産化学工業
TS-033	経口	1型糖尿病、2型糖尿病	●					自社	大正製薬
TS-022	外用	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	●					自社	大正製薬
バルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行（適応追加）	●					自社	大正製薬／田辺三菱製薬
<b>海外</b>									
TS-033	経口	1型糖尿病、2型糖尿病	●					自社	大正製薬

(2007年11月7日現在)

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

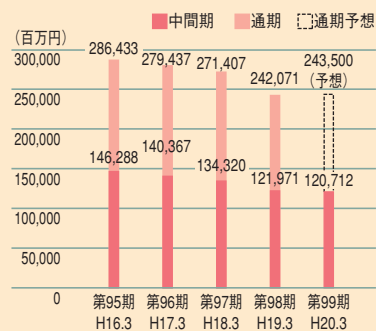
(単位：百万円)

科 目	当中間連結 会計期間末 (平成19年9月30日現在)	前中間連結 会計期間末 (平成18年9月30日現在)	前 連 結 会 計 年 度 (平成19年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>249,709</b>	<b>262,774</b>	<b>240,416</b>
現金・預金	130,414	135,517	131,263
受取手形・売掛金	73,102	82,020	72,242
有価証券	8,462	3,135	2,077
たな卸資産	26,402	25,284	22,915
繰延税金資産	7,481	8,229	7,495
その他	3,846	8,586	4,422
<b>固定資産</b>	<b>372,298</b>	<b>391,363</b>	<b>391,512</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>95,057</b>	<b>98,805</b>	<b>97,796</b>
建物・構築物	50,500	49,026	47,641
機械装置・運搬具	11,922	9,962	9,213
土地	27,413	26,648	27,389
建設仮勘定	1,060	8,404	9,019
その他	4,160	4,763	4,530
<b>無形固定資産</b>	<b>7,221</b>	<b>9,056</b>	<b>7,511</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>270,019</b>	<b>283,502</b>	<b>286,204</b>
投資有価証券	243,471	254,979	260,046
その他	26,547	28,522	26,158
<b>資産合計</b>	<b>622,008</b>	<b>654,138</b>	<b>631,929</b>

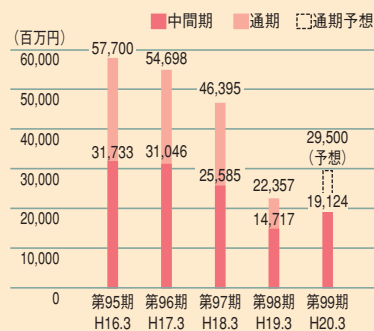
(単位：百万円)

科 目	当中間連結 会計期間末 (平成19年9月30日現在)	前中間連結 会計期間末 (平成18年9月30日現在)	前 連 結 会 計 年 度 (平成19年3月31日現在)
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>53,247</b>	<b>56,132</b>	<b>53,909</b>
支払手形・買掛金	22,751	22,406	20,380
短期借入金	260	330	225
未払金	9,623	11,900	13,698
未払法人税等	7,960	8,508	6,151
その他	12,651	12,986	13,453
<b>固定負債</b>	<b>22,422</b>	<b>31,180</b>	<b>30,533</b>
退職給付引当金	15,022	17,551	16,428
その他	7,399	13,629	14,104
<b>負債合計</b>	<b>75,669</b>	<b>87,312</b>	<b>84,443</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>526,249</b>	<b>539,421</b>	<b>520,409</b>
資本金	29,804	29,804	29,804
資本剰余金	14,935	14,935	14,935
利益剰余金	527,226	518,075	521,167
自己株式	(-) 45,717	(-) 23,393	(-) 45,497
<b>評価・換算差額等</b>	<b>18,100</b>	<b>25,418</b>	<b>25,212</b>
その他有価証券評価差額金	19,113	28,615	27,207
繰延ヘッジ損益	(-) 11	(-) 24	(-) 16
為替換算調整勘定	(-) 1,002	(-) 3,172	(-) 1,978
<b>少数株主持分</b>	<b>1,989</b>	<b>1,985</b>	<b>1,864</b>
<b>純資産合計</b>	<b>546,338</b>	<b>566,825</b>	<b>547,486</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>622,008</b>	<b>654,138</b>	<b>631,929</b>

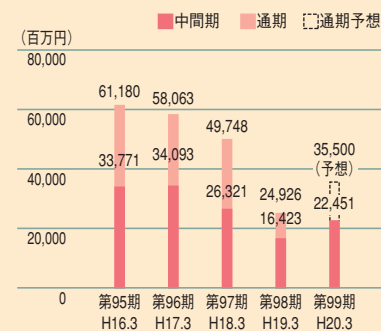
## 売上高



## 営業利益



## 経常利益

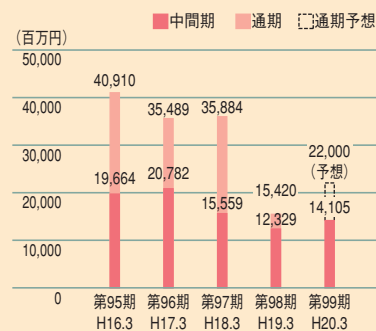


## 中間連結損益計算書

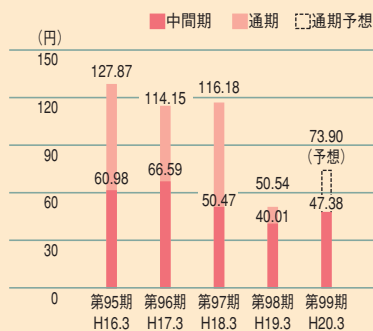
(単位：百万円)

科 目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会計年度
	(平成19年 4月 1日から 平成19年 9月30日まで)	(平成18年 4月 1日から 平成18年 9月30日まで)	(平成18年 4月 1日から 平成19年 3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>120,712</b>	<b>121,971</b>	<b>242,071</b>
売上原価	40,546	40,200	82,224
売上総利益	80,166	81,770	159,847
返品調整引当金繰入額((-)は戻入額)	79	110	(-) 3
販売費及び一般管理費	60,962	66,942	137,493
<b>営業利益</b>	<b>19,124</b>	<b>14,717</b>	<b>22,357</b>
<b>営業外収益</b>	<b>3,609</b>	<b>2,787</b>	<b>5,617</b>
<b>営業外費用</b>	<b>283</b>	<b>1,081</b>	<b>3,049</b>
<b>経常利益</b>	<b>22,451</b>	<b>16,423</b>	<b>24,926</b>
<b>特別利益</b>	<b>84</b>	<b>4,243</b>	<b>4,223</b>
<b>特別損失</b>	<b>104</b>	<b>52</b>	<b>152</b>
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>22,430</b>	<b>20,614</b>	<b>28,996</b>
法人税、住民税及び事業税	8,133	8,584	11,857
法人税等調整額	88	(-) 111	1,938
少数株主損益	102	(-) 187	(-) 221
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>14,105</b>	<b>12,329</b>	<b>15,420</b>

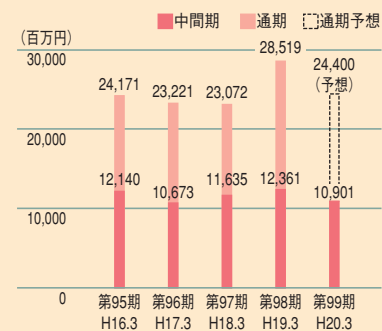
### 中間(当期)純利益



### 1株当たり中間(当期)純利益



### 研究開発費



## 中間連結財務諸表

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会計年度
	(平成19年 4月 1日から 平成19年 9月30日まで)	(平成18年 4月 1日から 平成18年 9月30日まで)	(平成18年 4月 1日から 平成19年 3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,193	6,597	29,638
投資活動によるキャッシュ・フロー	(-) 6,219	(-) 16,097	(-) 22,812
財務活動によるキャッシュ・フロー	(-) 8,196	(-) 9,283	(-) 31,084
現金及び現金同等物に係る換算差額	317	40	444
現金及び現金同等物の増減額	(-) 904	(-) 18,741	(-) 23,814
現金及び現金同等物の期首残高	68,381	92,195	92,195
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	67,477	73,453	68,381

### 中間連結株主資本等変動計算書 (要旨) (当中間連結会計期間 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算 差 額 等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成19年3月31日残高	29,804	14,935	521,167	(-) 45,497	520,409	25,212	1,864	547,486
中間連結会計期間中の変動額								
自己株式の取得				(-) 219	(-) 219			(-) 219
剰余金の配当			(-) 8,045		(-) 8,045			(-) 8,045
中間純利益			14,105		14,105			14,105
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						(-) 7,112	124	(-) 6,987
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	6,059	(-) 219	5,839	(-) 7,112	124	(-) 1,147
平成19年9月30日残高	29,804	14,935	527,226	(-) 45,717	526,249	18,100	1,989	546,338



## 中間単体財務諸表

### 中間単体貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 中 間 会 計 期 間 末 (平成19年9月30日現在)	前 中 間 会 計 期 間 末 (平成18年9月30日現在)	前 事 業 年 度 (平成19年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	217,719	227,244	205,311
固定資産	387,407	408,131	409,631
有形固定資産	90,795	94,637	93,595
無形固定資産	7,088	8,966	7,379
投資その他の資産	289,523	304,527	308,656
<b>資産合計</b>	<b>605,127</b>	<b>635,375</b>	<b>614,943</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	38,189	39,688	37,139
固定負債	18,821	27,620	26,696
<b>負債合計</b>	<b>57,010</b>	<b>67,309</b>	<b>63,835</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	528,985	539,692	524,055
評価・換算差額等	19,130	28,374	27,052
<b>純資産合計</b>	<b>548,116</b>	<b>568,066</b>	<b>551,107</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>605,127</b>	<b>635,375</b>	<b>614,943</b>

### 中間単体損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当 中 間 会 計 期 間 (平成19年 4月 1日から 平成19年 9月30日まで)	前 中 間 会 計 期 間 (平成18年 4月 1日から 平成18年 9月30日まで)	前 事 業 年 度 (平成18年 4月 1日から 平成19年 3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>97,063</b>	<b>98,509</b>	<b>194,356</b>
売上原価	32,332	32,235	65,681
売上総利益	64,730	66,273	128,675
返品調整引当金繰入額((-)は戻入額)	77	86	(-) 21
販売費及び一般管理費	47,034	51,812	107,188
<b>営業利益</b>	<b>17,618</b>	<b>14,374</b>	<b>21,507</b>
<b>営業外収益</b>	<b>3,068</b>	<b>2,703</b>	<b>6,559</b>
<b>営業外費用</b>	<b>205</b>	<b>254</b>	<b>539</b>
<b>経常利益</b>	<b>20,482</b>	<b>16,823</b>	<b>27,527</b>
<b>特別利益</b>	<b>80</b>	<b>88</b>	<b>67</b>
<b>特別損失</b>	<b>103</b>	<b>35</b>	<b>129</b>
<b>税引前中間（当期）純利益</b>	<b>20,458</b>	<b>16,876</b>	<b>27,466</b>
法人税、住民税及び事業税	7,262	6,176	8,577
法人税等調整額	—	—	2,139
<b>中間（当期）純利益</b>	<b>13,195</b>	<b>10,700</b>	<b>16,749</b>

さらに詳しい財務情報は  
HPをご覧ください

<http://www.taisho.co.jp/>



トップページ



IRページ

## 株式の状況・会社概要

### 株式の状況（平成19年9月30日現在）

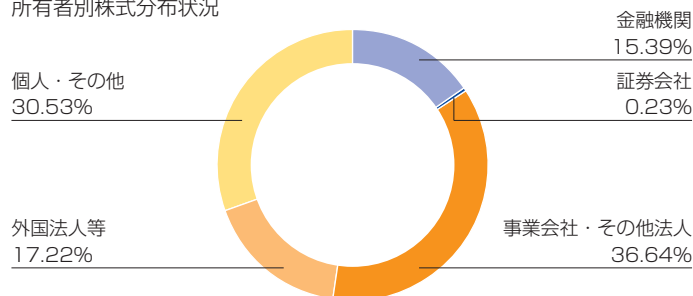
発行可能株式総数	普通株式	1,174,959,000株
発行済株式総数	普通株式	320,465,510株
単元株式数		1,000株
株主数		38,348名

#### 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	出資比率 %
財団法人上原記念生命科学財団	43,000	14.43
上原昭二	36,614	12.29
大正製薬株式会社	22,570	—
住友化学株式会社	12,133	4.07
ノーザントラストカンパニー（エイブイエフシー） サブアカウントアメリカンクライアアント	11,312	3.80
株式会社三井住友銀行	10,000	3.36
株式会社三菱東京UFJ銀行	10,000	3.36
財団法人上原近代美術館	10,000	3.36
メロンバンクエヌエートリーティーク ライアントオムニバス	8,520	2.86
上原明	7,145	2.40

※出資比率は、自己株式を控除して計算しております。

#### 所有者別株式分布状況



※自己株式は、控除して計算しております。

### 会社概要（平成19年9月30日現在）

商号	大正製薬株式会社
主な事業内容	医薬品、医薬部外品、化粧品、食品、 雑貨などの製造ならびに販売
創業	大正元年（1912年）
会社設立	昭和3年（1928年）
資本金	298億円
従業員数	5,235人（連結）、3,368人（単体）
本店所在地	〒170-8633 東京都豊島区高田三丁目24番1号

### 役員一覧（平成19年9月30日現在）

#### ●取締役

上原昭二（代表取締役会長）  
上原明（代表取締役社長）  
大平明（代表取締役副社長）  
堀田尚孝（代表取締役副社長）

佐々木賢明

北村一泰

酒井明人

上原茂

森川敏雄（社外取締役）

#### ●監査役

和気秀行（常勤）

戸山敏（常勤）

佃孝之（社外監査役）

伊従寛（社外監査役）

楠本節子（社外監査役）

新製品

## ヘルペシア軟膏 「口唇ヘルペス」の再発に



効能：口唇ヘルペスの再発（過去に医師の診断・治療を受けた方に限る）

当社は、医療用の抗ウイルス成分アシクロビルを配合し、OTC医薬品で初めて「口唇ヘルペスの再発」の効能を取得したスイッチOTC薬「ヘルペシア軟膏」を10月9日より発売開始しました。

口唇ヘルペスは、ヘルペスウイルスによって引き起こされるウイルス感染症で、唇やそのまわりに小さな水ぶくれができる病気です。ヘルペスウイルスは、一度感染すると三叉神経節に潜伏し、かぜ、疲れ、ストレスなどで免疫力が低下すると、ウイルスが活性化して症状を再

発します。対処法としては、早い時期に薬を塗り始めると効果的といわれており、OTC医薬品に適した薬といえます。

今後も新規成分、新規効能のスイッチOTC薬の開発を促進して、生活者のセルフメディケーションに貢献いたします。

ヘルペシア軟膏ウェブサイト

URL <http://www.taisho.co.jp/herpecia/>

## 医療用医薬品

### 「ジェニナック®錠200mg」新発売

当社連結子会社の大正富山医薬品は、キノロン系経口合成抗菌剤「ジェニナック®錠200mg」（一般名：メシロ酸ガレノキサシン水和物、開発番号：T-3811）を、10月5日に新発売いたしました。

本剤は、富山化学工業株式会社（以下、富山化学）が創製した新しいタイプのキノロン系合成抗菌剤で、多剤耐性肺炎球菌などの耐性菌を含む呼吸器・耳鼻咽喉科領域感染症に対し、良好な経口吸収性と組織移行性により1日1回投与で優れた臨床効果が期待できる薬剤です。

国内においては、富山化学と大正製薬が共同開発を行いました。



大正富山医薬品では感染症領域を重点領域の一つとしております。本剤の発売により、この領域での製品ラインアップをさらに充実させるとともに適切に情報提供を行い、医療現場のニーズにお応えしていきたいと考えています。

## 株 主 メ モ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
期末配当の基準日	毎年3月31日
中間配当の基準日	毎年9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) 自動音声応答サービス 0120-244-479
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載URL	<a href="http://www.taisho.co.jp/">http://www.taisho.co.jp/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。

### 【お知らせ】

- 株式に関するお手続き用紙のご請求について  
株式に関するお手続き用紙（届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等）のご請求につきましては、左記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。  
0120-244-479  
（三菱UFJ信託銀行証券代行部）  
0120-684-479  
（三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部）  
インターネットアドレス <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

通話料無料

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

- 配当金のお受取方法について  
振込口座をご指定されておられない株主様には従来、「郵便振替支払通知書」にて配当金をお受取りいただいておりましたが、平成19年10月1日に日本郵政公社が民営化されたことに伴い、「郵便振替支払通知書」に代わって「配当金領収証」にて配当金をお受取りいただくこととなりました（従前のとおり、もよりのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口にて配当金をお受取りいただくことができます）。



# 大正製薬株式会社

〒170-8633 東京都豊島区高田三丁目24番1号  
TEL：03-3985-1111

